

旭テック 様

新基幹システムが5つの事業部を繋いだ

高度な技術・創造力を支える、旭テックの情報戦略




大正5年の創業以来、各種金属の鋳造技術をベースにした製品を製造・販売している旭テックは、独自の技術で、自動車や産業機械を中心に軽量化と強靱化に貢献する数々の製品を手掛けてきました。電力機器事業と環境装置事業においても、エネルギーと地域アメニティに幅広く貢献しています。

全社的な業務見直し

旭テックでは、2003年の経営体制の変更に伴い、組織を横断するクロス・ファンクショナルチームが結成され、社内業務全体の見直しが始まりました。その分科会としてITタスクフォース（約12名）が設立され、2004年2月には、会計、販売・購買、生産管理などの社内システムの現状分析と次期基幹システムへの提言がまとめられました。

システムの統合が課題

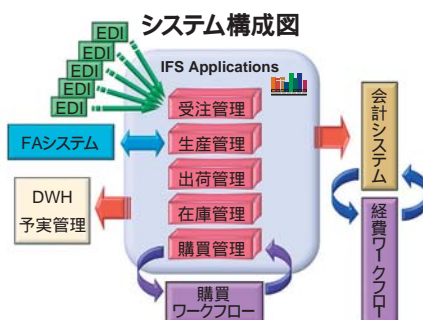
ITタスクフォースの分析によると、当時の汎用機ベースのシステムでは、会計、販売・購買、生産管理などのシステムはそれぞれ独立しており、システム間の連携が無いため二重入力も多く見られ、必要な情報をタイムリーに入手することが困難でした。会計については、先行して2003年に新しいシステムが導入されましたが、上記のような課題を解決するためには統合型パッケージの導入が最善と考え、2004年3月に、新システムの検討を開始。検討の際には同時に『業務の見直し』を図ることも狙っていました。

製品機能、グローバル性などを評価しIFSを選定

製品機能、グローバル性、コスト、導入スケジュールといった観点で複数のビジネス・アプリケーションを評価した結果、旭テックの要件に最も適合する製品として、NEC社が提案するIFS Applicationsを選定。販売・購買、生産管理についてはIFS Applicationsを、会計については既に導入済のシステムを利用することになりました。

選定理由について、情報システム部の小長谷部長は次のように説明しています。「弊社の5つの事業部は、生産形態やビジネス・スタイルがそれぞれ異なるので、基幹システムとしては、こういったことにも柔軟に対応できる製品が必要でした。そして、タイや中国の海外工場へ

の展開も視野に入れ、グローバルに使えるパッケージとして選んだのが、IFS Applicationsです。NEC社とは、汎用機時代からの付き合いがあり、弊社の業務への理解も深く、安心してプロジェクトを進めていくことができるのではないかと考えました」



IFS Applicationsを中心に複数システムが連携

3カ月の要件定義を経て、2004年6月にはシステム構築に着手。6人の専任メンバーに各部門から20名以上が加わり、導入プロジェクトがスタートしました。基幹システムの構築と同時に、実績収集のための「FAシステム」を国内4工場（静岡県菊川市3工場、愛知県豊川市1工場）のすべてに展開。新システムは、この「FAシステム」以外にも、約10種類のEDI、会計・人事給与システム、購買ワークフローなどが連携する大規模なものとなりました（システム構成図参照）。2005年10月には本稼動を迎え、今では200名がこの基幹システムを利用しています。

必要な情報にいつでもアクセス

ITタスクフォースの一員でもあった業務システムグループ長の竹原氏は「新システム

で実感したのが情報検索の簡便さです。システムが統合され、データが一元管理されているので、今では、その時点の最新情報がいつでも入手できます。旧システムで膨大に膨れ上がった帳票の数を新システムでは社外へ送付する物など必要最低限に減らし、データでの活用に切り替えています。今後も、管理・分析など戦略的情報活用ができるよう、全社的にデータの活用を進めていきたい」と語っています。

情報の精度・鮮度の向上とSOX法対応が課題

本稼動後一年半が経過し、システムはかなり現場に定着してきましたが、旭テックではより一層、情報の精度・鮮度を上げていきたいと考えています。顧客からの需要や生産実績等をタイムリーにシステムに入力し、より正確な生産計画を立てられるようにするなど、強力に業務支援できるシステムにしていく必要があります。その他に、当面の課題でもある日本版SOX法への対応については、2008年の内部統制義務化に向けて関連システムを整備し、また、ランニングコストに関しても、今後は削減していく予定です。

「変化を恐れず現状を打破しよう」「摩擦を恐れず自己を主張しよう」「失敗を恐れず未知に挑戦しよう」「困難を恐れず即座に行動しよう」をモットーに、モノづくりに励む旭テック。新しい基幹システムを土台に、これからも他の追随を許さない独創性豊かな製品を世の中に送り出していくことでしょう。

